



懸念される議会論議の停滞 多数会派が関連質問を“封隠”

「地方議会を一旦なくしたらどうでしょうか。困る人がいるのでしょうか。」前宮城県知事浅野史郎さんの発言です。

今、山梨県議会で大変なことが起きている。

これまで県議会では、本会議の一般質問に対し他会派の議員も関連質問をすることができました。

しかし、県議会の最大会派である「自民党・県民クラブ」と民主党系会派「フォーラム・未来」が、この制度を廃止してしまったのです。

廃止の理由は、「一般質問をした質問者の主旨と反対の質問をされると混乱するから」とのことです。県議会は、議論の場ですから、多様な意見が出されるのは当然のことです。

それなのになぜ、自らの意見に反

対の意見を封じるのでしょうか。

議員が、自らの手で議会での発言機会を制限するのであれば、議会も議員も要りません。

ましてや、与党と称し執行機関が提出した議案に、一言半句の異論も唱えることなく賛成するのであれば、ますます議会は不要になってしまいます。

政治家の発言は、「時と場所」が何よりも大事です。時を失した言葉には何の価値もありません。まして場所を違えた発言は空しく響くだけです。一言といえども、「その時に、その場所で」発言するから値千金なのです。

他会派の関連質問は、山梨県議会が他県に誇る60年も続いた制度であっただけに廃止は残念でなりません。



明全会

山梨県議会会派

Vol.2

2011/07
【発行元】明全会



早川 浩

大柴 邦彦

仁ノ平 尚子

丹澤 和平

森屋 宏

山下 政樹

永井 学

「明全会」、7名で新たな発進 熱い想いと高い志

私たちには、熱い想いがあります。

県議会を真剣な議論の場にする事です。

真剣な議論がいい施策を生みます。

いい施策は、豊かな山梨の明日を拓きます。

新たに当選した3人が加わり7人になりました。

何ものをも畏れず、何ものにも怯まない議員ばかりです。

「勇気と情熱と行動力」

誰にも負けません。

ふるさとのために、山梨のために

流せるだけの汗を流し、絞れるだけの知恵を絞ります。

これまでのメンバーのうち内田健代表は惜しまれながらも勇退しました。

そして、中込博文議員は南アルプス市長に転身いたしました。

私たち「明全会」は、これからも、真剣な議論を通し山梨の健全な発展を目指します。

皆様方より一層のご指導をよろしくお願いいたします。

明全会代表 丹澤 和平



明全会控室 【山梨県議会内】

世代を越えた明全会だからこそ、何気ない会話の中から、互いに刺激しあう情報交換の場になります。常にフレッシュな情報に耳を傾け、県政改革のヒントを見つけます。

明全会タウンミーティングを開催



山梨県議会会派「明全会」は、5月20日笛吹市の石和温泉足湯広場でタウンミーティングを開催しました。

当日は、石和温泉旅館組合（理事長山下安廣）ほか、石和温泉観光協会、石和温泉芸団協、県タクシー協会笛吹支部、笛吹市商工会石和地区、笛吹市議会の役員、会員、有志が参加し意見を交わしました。県への要望として、県の観光宣伝の方法や、節電対策としてのLED電球への切り替えに対する助成などの要望がありました。

今後も、県政に対する県民の意見や要望を聞き、議会活動に反映するため、県内各地で開催していきます。



この「明全会」に関するお問い合わせは 【発行元】 山梨県議会 明全会
甲府市丸の内一丁目6番1号
電話 055-223-1803

すべては山梨県民の生活と二元代表制の本旨に基づいて行動するために。

山梨県議会会派

明全会

我々「明全会」は全員一丸となって目標の達成のために邁進して参ります。

西八代郡

「いつくは死ぬる手」

「いつくは死ぬる手なり、いつかざるは生きる手なり」
生涯に60数回も試合をし、一度も負けたことのないと言われている宮本武蔵の兵法の極意です。

人は、居心地がいいから居着くはずなのに、武蔵は、「居着くこと、つまり固定していると死ぬことにつながる。敵の動きに合わせて変化しなければ生き残れない」と説いています。現状を変えるには勇気が要ります。しかし、何時までも、「与党議員は、知事の提出する議案に一言半句の異論を唱えることなく賛成することだ」と考えているようでは、議会

丹澤 和平

たんざわ かずひら

など要らなくなってしまう。

県議会は、県が提案する「行政サービスという商品」を県民の皆さまに成り代わって、その商品の善し悪しを自らの手にとって吟味し判断するところです。

しかし、知事が、提案する予算を待っていて、それを議論するだけなら余りにも消極的過ぎます。

これからの議会は、自らが時代の変化に敏感に対応した条例を制定し、それに基づいた施策を実現させることです。「常に変化に柔軟な会派でありたい」と願っています。



都留市・西桂町

森屋 宏

もりや ひろし

全国に負けない「働く議員」に

今回の県議選を通じて、多くの候補者は「政治改革」を訴えていました。しかし、実際には「改革」とは名ばかりというのが実態です。なぜなのか。最大の原因は、問題の本質に多くの人が気付いていないからです。

県の場合、平成11年に国会で成立した「地方分権一括法」によって、その仕事が180度変わりました。つまり、明治維新後、県は国の出先機関として、市町村を監督指導する役割を担ってきました。しかし、「地方分権一括法」でこの役割はすべてなくなることとなりました。

以後、国と県、市町村は対等の関係となり、県は市町村を横断して広域的行政課題を解決する役所となりました。特に地域経済対策など、地域間競争へ突入し、富める地域とそうでない地域との差が出てくるようになり、「政治家の実力」で地域間に差が出ています。

議員も名誉職であった時代感覚から早く脱皮して「働く議員」へと自己改革をしなければなりません。私たち明全会は全国に負けない議員集団をめざします。

甲府市

志、いつも高く

新たなスタートの今、私も新たな意欲に満ちています。三期目の当選をさせていただきました。たくさんのご支援をいただき、身に余る光栄です。背中をドンと押されて、「しっかり働きなさい」と、新たな、そして本当のスタートラインに立たされた気持ちです。この感激を忘れず、これからの四年間、励みます。

私たちの会派・明全会は、県執行部と議員がしっかり議論することにより、県庁や議会を変えていこうと考え、行動するグループです。このことが、県民の生活をより豊か

仁ノ平 尚子

にのひら ひさこ

にするために大切なことだと考えています。

新人議員三名を迎え入れ、さらにフレッシュ、エネルギーシユな明全会です。その中にあって、私は、三期、甲府、女性、無所属市民派という自分の独自性を生かして、存在感を発揮し、会派のパワーアップに貢献したいと、はりきっています。そして、それが議会と県政を変えていくと信じています。

私も、明全会も、ともに、「志、いつも高く」進んでまいります。ご声援どうぞよろしくお願いします。



北杜市

議会活動を通し、少子化対策に挑戦

今、自治体財政の健全化、行政の効率化やスリム化が求められています。

本県においても、「チャレンジ山梨行動計画」が策定され、県民の理解と協力が相俟って、一定の成果は上がりつつあります。さらに過日、成立した地方分権3法により、地方の権限が増大しました。半面、地方分権の進捗は、その権利の担い手としての責任も大きくなっていくことを意味します。

こうした地方自治に関する制度改革の下、議会の役割は、その重要度を増しています。私は、議会活動の拠点として「明

大柴 邦彦

おおしば くにひこ

全会」に籍を置き、議会人としての責務を果たしていくことにいたしました。当会派を選択したのは、当会が、常に、地方議会の基本理念である「二元代表制」の本旨に基づいて行動している実績に共感してのものでした。

昨今、県政の課題は多岐にわたります。とりわけ急激な「少子化」は「ふるさと山梨」の存続の危機でもあります。私が暮らす北杜市も「保育料第2子無料化」等、積極的に取組中ですが、将来への不安は消えていません。明全会での議会活動を通し、積極的な発言を展開していきます。



富士吉田市

早川 浩

はやかわ ひろし

県民目線の政治へ「変えるのは今」

今、他県では「議会改革」が進んでいます。大阪府の橋下知事や名古屋市の河村市長は議会のあり方を民意に問い、また三重県や長野県等では県民に開かれた「議会改革」が行われています。しかし、山梨県はどうか。山梨県議会は、いまだに慣例重視が先行している状況です。これが県民にわかりやすい開かれた議会といえるでしょうか。「いつになったら変わるのでしょうか?」

今回の震災で、私たちの仲間「チーム早川ひろし」では若いスタッフの発案、協力で地震から3日目には、飲料水

や粉ミルクの寄付を募り、それを現地に届けました。被災地を見て感じたことは、行政が「私たちに何をしてくれるか」ではなく、県民一人一人が「私たちは何ができるか」を考え行動することが大切であり、山梨、地域のために県民と共に考え、共に行動する政治が、ますます求められているということを改めて実感しました。

私は県民と共に考え行動する「県民目線の政治」を約束し、そのための議会改革に取り組みます。「変えるのは今です!」

甲府市

議会改革に若い力をぶつけたい

「自分の息子や孫たちの未来を、永井君の世代に託したい」。選挙の遊説中、見知らぬお婆ちゃんが、私の手を握って、ポロポロと涙を流しながら、そう言ってくれました。その時の、お婆ちゃんの顔が今も忘れることができません。

多くの方々から、30代の私に期待を寄せていただきました。それらの方の期待に応えるため、現役最年少議員として、自分がやらなければいけないことは何か。まず、若い世代の代表として、この世代の感性を、おもいきり議会にぶつけていくことだと決意しています。政策・議論に、と

ことん加わり、県民の皆さんの目線にたった山梨県議会をつくりあげていくことです。

私は、その活動の拠点として、迷わず「明全会」の門を叩きました。議会が本来あるべき姿を追究し、個々の政策課題に是々非々のスタンスで臨む会派の基本理念は、まさに私が目指すものと同じです。まだ短い期間ですが、実際に行動を共にしてみて、この理念は間違いなく10年後の山梨県議会のスタンダードになると確信しました。開かれた活発な県議会にするため、全力投球して参ります。

永井 学

ながい まなぶ

